



JASDAQ

平成 24 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社
代表者名 代表取締役社長 岡本 毅
(J A S D A Q ・ コード 7746)
問合せ先 執行役員総務人事部長 秋山 仁志
電 話 04-7137-3111

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 11 月 11 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)の連結業績予想値を下記のとおり修正するとともに未定としていた個別業績予想値を公表いたします。

記

1.平成 24 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	6,246	420	414	740	46.41
今回修正予想 (B)	5,556	100	50	380	23.83
増減額 (B - A)	△690	△320	△364	△360	-
増減率 (%)	△11.0	△76.2	△87.9	△48.6	-
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	6,369	865	794	723	45.36

修正の理由

欧米での景況感の悪化を背景とした、プロジェクターのセットメーカーでの在庫調整は、平成 23 年 12 月頃には、概ね収束すると見ておりましたが、反射鏡とフライアイレンズの需要の回復は当初見込みより遅れております。加えて、フライアイレンズについては、当社の生産能力が東日本大震災のため減少しました。フライアイレンズ専用炉稼動により、新規案件の引き合いは活発となりましたが、量産受注は一部回復が遅れております。

また、デジタルシネマの成長市場が、新興国に移行していることに対応すべく、デジタルシネマ用映写機の反射鏡の拡販に努めておりますが、計画より遅れが生じております。

さらに、震災により被災したガラス溶融炉の代替として平成 23 年 6 月に新設したフライアイレンズ専用炉は、フィーダー部品の老朽化により足元の良品率が低下してございましたが、部品の交

換を、平成 24 年 2 月中には完了し、以降は良品率が再び向上する見込みです。加えて、平成 24 年 2 月には、反射鏡生産用のガラス溶融炉 1 基について、更新設備投資として炉修を行うため、第 4 四半期連結会計期間は、ガラス基板の仕掛品在庫を取り崩しつつ製品生産を続けることとなります。

これらにより、平成 24 年 3 月期通期連結業績予想は、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益のいずれも前回予想を下回る見込みです。

2. 平成 24 年 3 月期通期個別業績予想(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
今回発表予想	5,494	△135	△185	95	5.96
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	6,286	488	474	778	48.83

平成 24 年 3 月期の個別業績予想については、未定としておりましたが、今後の見通しに一定の見極めが可能となりましたので、本資料にて開示いたします。

個別業績は、フライアイレンズ専用炉での良品率の低下とフィーダー部品の交換など連結の業況で述べたことに加えて、今後の電力供給と電力料金が不透明であることから、反射鏡の蒸着工程につき、千葉県柏市の当社高田工場から、連結子会社である新潟岡本硝子株式会社へ順次、生産移管を進めている影響を受けております。

以上